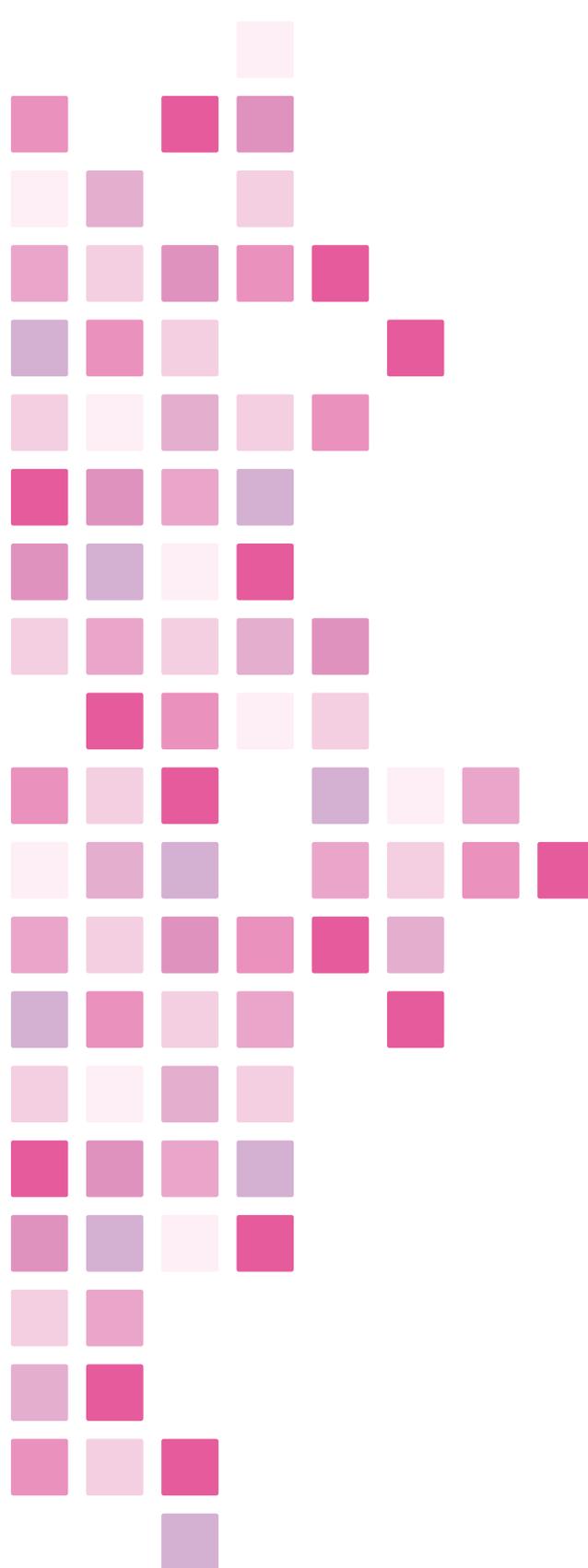


2021年3月版



2020年度  
日本女子大学  
社会連携教育センター  
活動報告書



日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY



# 目次

社会連携教育センター開設にあたり ..... 1

日本女子大学学長 篠原 聡子

1年間の活動を振り返って ..... 2

社会連携教育センター所長（家政学部被服学科教授） 横井 孝志

## 地域連携報告

文京区妊産婦・乳児救護所運用に向けた取組 ..... 3

地域連携推進プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授） 平田 京子

川崎市多摩区 大学・地域連携事業報告 ..... 5

社会連携教育センター産官学教育連携部門長（人間社会学部文化学科教授） 中西 裕二

北海道日高管内7町との包括的な連携協定締結について ..... 6

社会連携教育センター産官学教育連携部門長（人間社会学部文化学科教授） 中西 裕二

## 産学連携教育報告

日本総合住生活株式会社との産学連携について ..... 7

産官学教育推進プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授） 定行まり子

（家政学部住居学科学術研究員） 古賀 繭子

ICT分野における産学連携について ..... 13

産官学教育推進プロジェクトチーム研究員（理学部数物科学科教授） 長谷川治久

## JWUラーニング・コモンズかえで

「JWUラーニング・コモンズかえで」開設に向けての経緯 ..... 15

正課外学修推進/ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授） 平田 京子

「JWUラーニング・コモンズかえで」ロゴについて ..... 16

正課外学修推進/ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授） 平田 京子

「JWUラーニング・コモンズかえで」プレオープニングイベント報告 ..... 17

正課外学修推進/ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授） 平田 京子

## 心理相談室

心理相談室設置準備状況 ..... 20

心理相談室設置準備プロジェクトチーム研究員心理相談室長（人間社会学部心理学科教授） 川崎 直樹

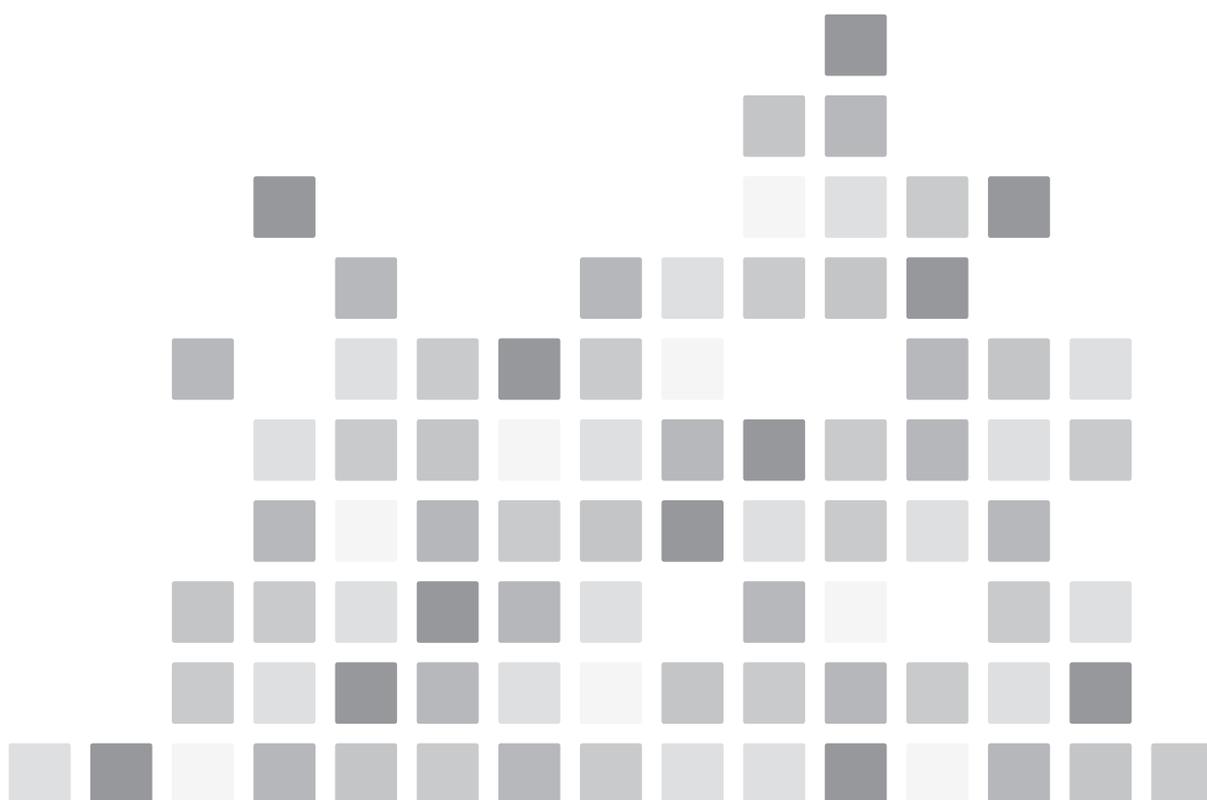
## 子育て研究支援ネットワーク（仮）について

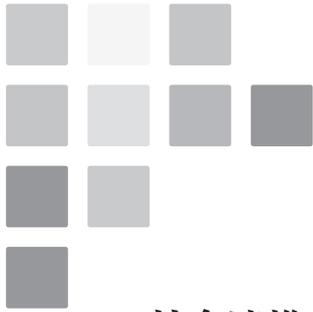
JWU 子育てサイエンス・ラボが設立されます ..... 21

社会連携教育センター地域連携部門長（家政学部住居学科教授） 葉袋奈美子

JWU ラーニング・コモンズかえで プレオープニングイベント資料 ..... 22

センター構成員・各種委員 ..... 25



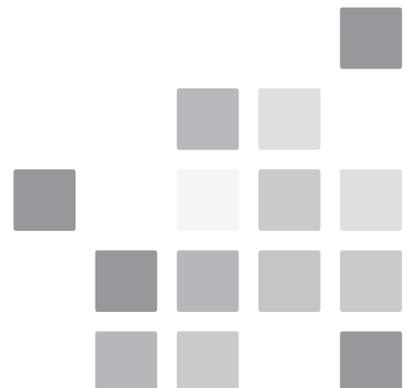


## 社会連携教育センター開設にあたり

日本女子大学学長 篠原 聡子



社会連携教育センターの設立は、日本女子大学の教育にとって、明確なひとつの方針をしめすものです。それは、学内にとどまらず、社会との連携の中で、学ぶ姿勢を強化するということです。企業や行政、あるいはNPOなどの民間の団体との共同研究やプロジェクトの中から、学生にとって、自ら気づき、課題を発見し、なにかを生み出すことは、それぞれの専門分野で得た知見をさらに深いものとするはずですが、もちろん、そうした社会との接点は、大学を卒業すれば、必ず体験するものですが、大学という自由なフィールドから、そこに関わることに意味があります。短期的な利益や特定の人の利害から離れたところで、アカデミックな立場から社会に関わることは、学生であるからこそそのメリットです。そして、社会連携教育センターでは、そうしたそれぞれの取り組みを一つのプラットフォームにのせることで、相互に情報を共有し、プロジェクト間の連携も模索できればと考えております。さらに、社会連携教育センターにおける学生の取り組みを通して、持続可能で豊かな社会へのメッセージも発信して参ります。





## 1年間の活動を振り返って

社会連携教育センター所長 横井 孝志  
(家政学部被服学科教授)



社会連携教育センター報告書第1号をお届けします。

2020年4月に社会連携教育センターが発足して1年が経過しました。この間、様々な方々にセンターの活動をご支援頂いたことに対し、心より御礼申し上げます。

既にご承知のように、本学の社会連携教育センターは、日本女子大学と地域社会とを繋いで、本学の研究・教育資源を活用した地域社会における課題の解決や、地域社会における実践的現場を活用した社会連携教育の実現を支援する組織です。発足1年目は、センターで取り組むべき活動内容の洗い出しや整理、種々の活動を実施する体制の整備、中期計画や中期目標の設定などを手探りで進めながら、それと並行して個々の社会連携活動にも着手するといった慌ただしさで、まさに「走りながら考える」といった状態でした。

この1年間はセンターの活動を軌道に乗せるための助走的な期間ではありましたが、センターの構成員、プロジェクトメンバー、事務局の方々などの献身的な努力によって、いくつかの具体的な活動や事業も推進することができました。本報告書はこれらの成果をまとめたものです。是非ご一読頂き、今後の社会連携教育センターとの連携の契機にして頂けると大変ありがたく思います。



# 文京区妊産婦・乳児救護所運用に向けた取組

平田 京子 地域連携推進プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授）

日本女子大学は、文京区と「相互協力に関する協定」を締結している。これは、大学の立地自治体である文京区と本学が、幅広い分野でより一層の連携と、緊密な協力体制を築くことを目指すものである。

この枠組で、本学は文京区から「妊産婦・乳児救護所」に指定されている。地震等による家屋の倒壊の恐れなどがある場合、妊産婦・0才の乳児を受け入れ、避難生活の支援や医療・健康相談を行う。文京区が日本で初めて導入した新しい避難所のタイプである。この運用を事前に検討しておく、災害発生後に母子に安心して避難してもらうことが必要であった。

妊産婦・乳児救護所の具体的な運用については、今年度から開設されている社会連携授業「地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト演習 A」（授業担当：住居学科 平田京子）において、本学の学生、教職員、文京区が三位一体となって検討をしている。学生は大学事務局とも相談しながら収容計画を練り、学生同士でグループワークを行っている。まずは救護所はどのように開設・運営されるかという運営体制を理解し、運営準備をどうしたらよいか、どのような方法で母子を受け入れるか、どうしたらスムーズな運営ができるかを毎週授業で討論している。

これに先駆けて文京区では、大地震発生後に駆けつけただれもが迅速に一般避難所を開設できるように避難所開設キットを開発、区内全避難所に配備し、キットを用いた避難所開設訓練を実施してきた。このキットを文京区から提供していただき、妊産婦・乳児救護所開設キットを卒業研究生が開発した。その内容を授業で取り上げ、よりよいものに改善するための検討を行ってきた。

2020年11月9日には、これまでの検討結果での開設が実際にどのようなになるかを実習した。文京区、防災を専門とする教員、大学の担当部署、社会連携部署なども一緒に参加し、開設を実際にやってみて、課題を共有した。

一連の開設作業後、学生と文京区、教職員で課題を共有した。やってみると、いろいろなことが分かり、たくさんの意見が出された。これらを授業に持ち帰って、検討を継続している。

つぎは学生が主体的に支援者になれるかを検討する段階に来ている。今日も、学生はディスカッション。全学から参加する授業として今年度は遠隔授業でやっており、オンラインワークショップ

を続けている。



# 川崎市多摩区 大学・地域連携事業報告

中西 裕二 社会連携教育センター産官学教育連携部門長（人間社会学部文化学科教授）

2020年度、川崎市多摩区の実施体である「大学・地域連携事業」において、「生田でインバウンド～生田緑地の魅力発信～」という事業を計画した。「大学・地域連携事業」は、多摩区から区内にゆかりのある三大学（専修大学、日本女子大学、明治大学）への委託事業として大学が事業費を受け入れて実施するもので、学生と地域社会との交流連携を図るとともに、地域社会の様々な課題の解決を図り、地域の活性化につなげていくことを目的とした事業である。「生田でインバウンド～生田緑地の魅力発信～」は、生田緑地の様々な文化資源・自然資源を利用し、当該地域にいかによりインバウンド観光客を呼び込むかを考える事業であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から具体的な活動を制限せざるを得なかった。

当初は、外国人モニターを生田緑地に招き一日過ごしていただき、その内容を外国人モニターの母国語で、SNS上で発信してもらい、生田緑地の知名度を上げるというものだった。2020年度前期の、人間社会学部文化学科の専門科目「情報と文化演習Ⅳ」（担当：中西裕二、杵村史朗）の授業で学生とその方策を考え、インスタグラムに写真をアップし、今後の外国人モニターツアーにつなげる形にすることにした。

上記の授業で、学生にはインスタグラムのフレーム案を出してもらい、その中で最も良い出来映えのものを使いインスタグラムにアップし、2020年10月に2回に渡り生田緑地の撮影会を学生とともにやり、その写真、及び写真を使ったストーリーを作成されたインスタグラムフレームにアップした。その際、英語での説明も入れるようにした。事業の成果は2021年3月18日にオンラインで開催された「大学・地域連携事業報告会」で報告がなされた。



Instagramはこちら



事業報告会の様子  
(川崎市多摩区のHPへ)

# 北海道日高管内 7 町との 包括的な連携協定締結について

中西 裕二 社会連携教育センター産官学教育連携部門長（人間社会学部文化学科教授）

北海道日高管内 7 町（日高町、平取町、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町）、日高振興局並びに日高町村会と本学との包括的な連携協定締結が話題になったきっかけは、2019 年 11 月にさかのぼる。

日高管内 7 町は、国の地方創生の主要政策である地域間連携の一環として東京都文京区と交流協定を結んでおり、それに基づき近年は文京博覧会（通称：ぶんぱく）へ出店していた（場所は文京シビックセンター 1 階で、2019 年 11 月 15 日、16 日に開催）。これに参加していた日高振興局・日高町村会事務局の方が、文京博覧会終了後に本学へ来校し、官学の連携協定について切り出したのが始まりであった。そのとき、本学では学務部長、学務部事務部長が対応した。

自治体側から提案された話なので実現可能性が高いと考え、当時の学務部副部長・学生生活部副部長を兼務していた人間社会学部文化学科教授の中西裕二が日高振興局管内の自治体を訪れ先方の要望を確認することになり、12 月から現地との調整が続けられた。その結果、2020 年 2 月 16 日～19 日に日高振興局内を訪れ 7 町の町長と全て面談することができ、日高管内の各自治体が本学との包括連携協定締結に極めて前向きであることを確認することができた。

その後、本学と先方の事務局である日高町村会において「相互協力に関する基本協定書」及び「相互協力に関する協定実施細目」の具体的内容について検討を行った結果合意に至り、それぞれ機関において決定した（本学は 2020 年 11 月 25 日 常任理事会承認）。

だが、そこから新型コロナウイルスの感染が拡大し、2020 年 3 月の緊急事態宣言に至り、2020 年度内に包括連携協定の締結を行うことができなかった。そのような中でも、本学関係者と日高振興局、町役場の職員とのオンライン会議が数回開かれ、また、日高町村会長でもある様似町の坂下町長は、東京出張に合わせて 2020 年 11 月 25 日に本学へ来校するといったように、両者の包括的な協定締結への交流は続けた。そして 2021 年度に、正式に日高振興局及び振興局内 7 町、計 8 自治体との包括的な連携協定が締結される運びとなった。

# 日本総合住生活株式会社との産学連携について

定行 まり子 産官学教育推進プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授）  
古賀 繭子（家政学部住居学科学術研究員）

## 1 日本総合住生活株式会社との協定締結

本学と日本総合住生活株式会社（以下「JS」という。）は、2020年8月13日に産学連携による寄附授業の協定について締結式を行った。JSの事業分野である集合住宅団地では、日本社会の縮図とも言われる少子高齢化などの課題に取り組む必要があり、一方、本学における研究・教育分野は地域社会や生活環境との関連が深く、両者が連携する意義は大きいと言える。

こうした背景から、JSの実務としての取組み・実践フィールドと本学の専門的、学術的な知見や学生の柔軟な発想・探求心との協働を通して、実務と学術・教育の新たな社会連携プログラムを創設し、産学連携による社会的課題を解決することを目指して、寄附授業が設置された。寄附授業は2021年度入学者から必修となる「JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目」のうち、「社会連携科目」の中に開設される。この授業は講義のみならず、具体的なテーマや団地における課題解決型・提案型ワークショップなども予定しており、この寄附授業を通して、学生と企業が様々な社会的課題を効果的に解決していくことが期待される。

## 2 寄附授業開講を記念したイベントを開催

2021年度より開講する授業に先立ち、寄附授業開講を記念したイベントを表1に示す通り、2020年度に5つ開催し、延べ600名を超える参加があった。イベントは本学学生及び教職員を対象としたオンライン団地見学、本学学生のみ対象のワークショップを各1回の他、ホームページなどの媒体を通して一般にも対象を広げ、計3回の講演を開催し、卒業生や建築関連企業従事者など、幅広い層に参加いただくことができた。

第1回目は10月8日にJS石渡社長と本学篠原学長との対談を開催した。団地の紹介やJSによる空き家活用による分譲団地再生事業とシェアハウス紹介等の利活用実態、JS主催で本学学生も参加するリノベーションコンペティションの説明を交えながら、日本社会の縮図であり地域の財産である団地の、ニューノーマル時代に向けた可能性について対談いただいた。

第2回目は11月5日に小川信子名誉教授と本学住居学科定行まり子教授による対談を開催した。JSの前身である株式会社団地サービスの設立秘話を皮切りに、草創期の団地について、遊び場や子どもの生活圏を中心とした視点からの対談であった。

第3回目は12月3日にオンラインでの団地見学を実施した。対象団地は現在建替えが進められている赤羽台団地とし、団地紹介のほか、関係者へのインタビューも実施し、配信した。関係者イ

インタビューでは本学大学院住居学専攻の学生がインタビュー内容の企画及びインタビュアーとして参加した。

第4回目は12月17日に学生を対象としたオンラインでのワークショップを実施した。ワークショップでは第3回のオンライン団地見学を視聴した上で、団地の印象を共有し、団地を豊かにするスペース、もの、イベント、サービス等が提案され、短時間の中でも柔軟な発想の提案が出された。

第5回目は2月4日に「芝園団地に住んでいます」著者で朝日新聞ワシントン特派員の大島隆氏による講演を実施した。居住者の半数以上が外国人である川口芝園団地の居住者像から、団地の課題と取り組み等の実態、共生する団地づくりに向けた要件を説明いただいた。

各イベント後には感想聴取アンケートも実施し（表2）、一般も対象とした第1回、第2回、第3回では幅広い年代の方に参加いただき（図1）、全イベントを通じて大変高い満足度が得られた（図2）。

### 3 オンラインでのイベント開催のための広報

5つのイベント開催にあたり、広報にも注力し、SNSも活用する等、多角的な広報を試みた。まず、オリジナルのホームページを本学ホームページ内に作成し、広報課よりニュースリリースを発行した。同時にJSにおいても同時期にニュースリリースを発行していただくことで、広報の強化に努めた。本学ではホームページ作成以外にも、TwitterやInstagramでの発信や、本学卒業生への広報、他団体のホームページでの掲載等、多角的な発信により、参加者を広く募集した。

また、新型コロナウイルス感染対策のため、対面による開催が困難であったことから、オンライン会議システム「Zoom ウェビナー」等を活用した。第1回および第2回は本学会議室に対談会場を設置し、その様子をビデオカメラにて同時双方向型配信を実施した。リアルタイムで配信したため、参加者からの質問もチャットにて受けつけ、イベント中に質疑応答し、参加者との距離を感じさせない方式とした。各イベント後には感想聴取アンケートにおいても、オンラインでも約7割が音や画像の乱れがなく、問題なく視聴できた、開催地に関係なく参加できることなど（図3）、オンラインでのイベント実施に前向きな意見をいただいた。

### 4 2021年度より開講する寄附授業に向けて

2020年度は、寄附授業開講に向けた産学連携イベントを計5回実施し、JSの事業分野である集合住宅団地をフィールドに、本学における研究・教育分野である地域社会や生活環境の視点を切り口に、過去から現在、そして未来に向けた提案を協働することができた。

2021年度より社会連携科目の「JS寄附講座 住まい・団地・まちづくりフィールドスタディ」が開講され、JSの実務としての取組み・実践フィールドと本学における学生の柔軟な発想・探求心との協働が本格的にスタートする。JSと本学が連携をより深め、社会と学術との融合による新たな創造が期待される。

表1 イベントの実施概要

開催月日	テーマ	対象 / 申込者数 / 参加者数 / 方法
2020年 10月8日 14時～ 15時30分	JS 石渡廣一社長と本学篠原聡子学長の対談による「新しい生活スタイルと住まい・団地～ニューノーマル時代に向けて～」	本学学生・教職員・一般 / 297名 / 231名 / Zoom webinar
2020年 11月5日 14時30分 ～ 16時	小川信子名誉教授と定行まり子家政学部住居学科教授の対談による「住宅団地と暮らし～過去からニューノーマルの生活スタイルを学ぶ」	本学学生・教職員・一般 / 243名 / 166名 / Zoom webinar
2020年 12月3日 14時～ 15時30分	ヌーヴェル赤羽台オンライン団地見学	本学学生・教職員 / 54名 / 48名 / Zoom
2020年 12月17日 14時～ 15時30分	団地の印象を共有するオンラインワークショップ「団地トークイン JWU」	本学学生 / 18名 / 12名 / Zoom
2021年 2月4日 13時～ 14時30分	朝日新聞ワシントン特派員の大島隆氏による「団地と多文化共生～芝園団地の事例から」	本学学生・教職員・一般 / 235名 / 187名 / / Zoom webinar

表2 イベント後の参加者に対するアンケート調査概要

実施期間	対象講演会 / アンケート内容	実施方法 / 回答者人数
2020年 10月8日 ～ 22日	「新しい生活スタイルと住まい・団地～ニューノーマル時代に向けて～」 / 団地に対する意識変化、興味深かった内容や面白かった内容、視聴環境、満足度、属性	Microsoft Forms / 165名
2020年 11月5日 ～ 19日	「住宅団地と暮らし～過去からニューノーマルの生活スタイルを学ぶ」 / 興味を持った内容、視聴環境、満足度、属性	Microsoft Forms / 115名
2020年 12月3日 ～ 20日	ヌーヴェル赤羽台オンライン団地見学 / 住まいや団地、地域に対するイメージや意識の変化、興味を持った内容、視聴環境、満足度、属性	Microsoft Forms / 14名
2020年 12月17日 ～ 31日	「団地トークイン JWU」 / 住まいや団地、地域に対するイメージや意識の変化、興味を持った内容、ワークショップの実施方法に対する評価、満足度、属性	Microsoft Forms / 9名
2021年 2月4日～ 18日	「団地と多文化共生～芝園団地の事例から」 / 興味を持った内容、視聴環境、満足度、属性	Microsoft Forms / 125名

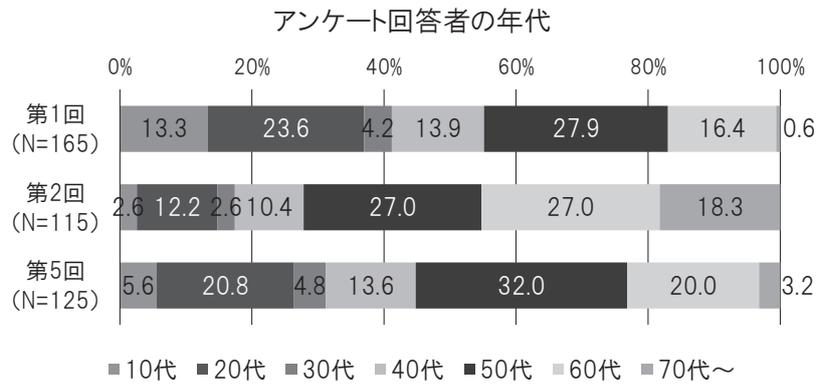


図1 アンケート回答者の年代

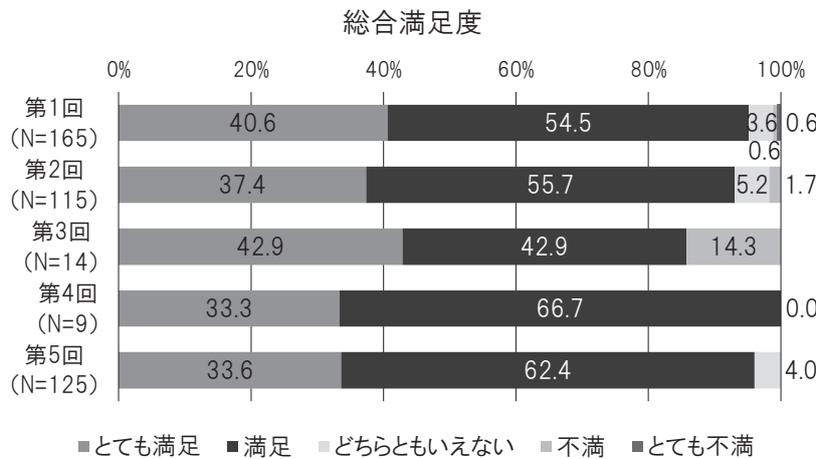


図2 イベントに対する総合満足度

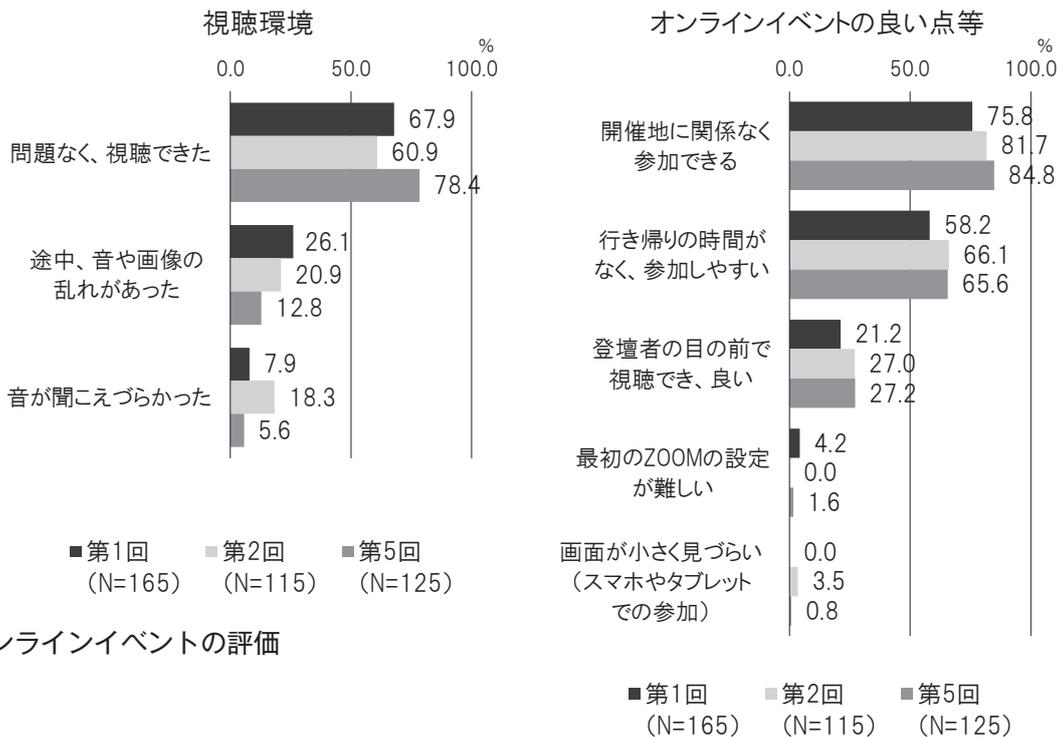


図3 オンラインイベントの評価



締結式の様子。左から、  
JS 石渡社長、今市理事長。



Web セミナー「新しい生活スタイルと住まい・団地～ニューノーマル時代に向けて～」の様子。  
左から、JS 石渡社長、篠原学長



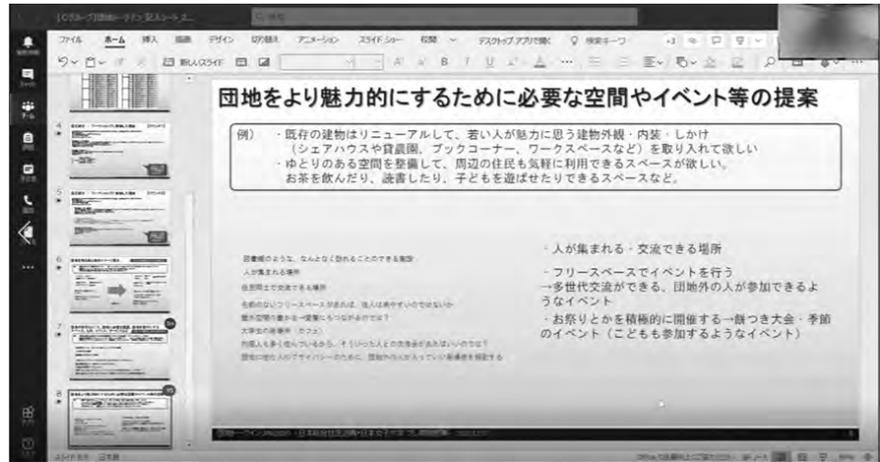
「住宅団地と暮らし～過去からニューノーマルの生活スタイルを学ぶ」を  
講演いただいた小川信子名誉教授。



# 大ピロティ

ヌーヴェル赤羽台・赤羽台団地 オンライン見学の様子

団地トークイン JWU での、  
Microsoft Teams を活用した  
オンラインワークショップでの  
学生提案発表の様子。



大島隆氏による Web セミナー「団地と多文化共生～芝園団地の事例から」の様子。

# ICT 分野における産学連携について

長谷川 治久 産官学教育推進プロジェクトチーム研究員（理学部数物科学科教授）

インターネットによって発達してきたサイバー空間と私たちが生活するリアルな世界を融合させることで社会問題を解決し、質の高い生活がおくれる社会を実現することが世界中で考えられている。これを背景にビッグデータを解析するデータサイエンスと人工知能（AI）は脚光を浴び、次世代モバイル通信やIoTなどがそれを後押ししている。さらにコロナ禍によりICTの活用が加速したとも言われている。このような変化が進む社会にあって大学がその役割を果たすには、ICTを牽引する産業界と連携し、大学と企業の資源をつなぎあわせていくことが鍵となる。

これまで本学全体としてはICT企業との連携はあまり行われてこなかった。しかし、社会連携教育センターの発足にともない積極的な活動を開始した。まず、株式会社ラック社と「ICT活用能力育成に関する覚書」を2020年3月24日に締結し、ICT分野の動向を本学の研究・教育活動に活用できる体制を整備した。ラック社は情報社会におけるセキュリティ対策を強みとするICTベンダーであり、情報社会で活躍する女性を育成する上で重要な知見を提供いただいている。2020年度には社会連携科目の開講に向けた試行的取り組みとして、同社で活躍されている方々に一部科目の教育に参加していただいた。

また、2020年3月23日には、お茶の水女子大学と「文理融合データサイエンス教育に関する覚書」を締結し、データサイエンスや人工知能に関する教育に関する協力体制を構築した。この連携で共有されるデータサイエンスに関する教材は、2021年度に開講した基礎科目情報処理の応用科目である「データサイエンス入門」に活用されている。

さらに、株式会社富士通および富士通クラウドテクノロジーズ社（以下FJCT）との連携を進めている。FJCTはモバイルアプリを構築するクラウドプラットフォームを提供する企業である。モバイルアプリは、社会における個人とコミュニティ、企業や自治体、また関連する情報をつなぐキー技術である。2020年度は技術的なノウハウの取得と教育方法に関する検討を進めるため、クラウドシステムの技術的チュートリアルを受けながら連携を深めた。得られる知見は2022年度に開講される社会連携科目への活用をめざしている。また、これに関連して富士通、FJCT、津田塾大学などと協力して女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム（WUSIC）を発足させ、連携活動の展開のための仕掛けづくりにも着手した。これらの取り組みはすべて大学からのプレスリリースを行い、本学がICTを軸とした社会連携に積極的であることを社会にアピールしてきた。

スマートフォンの登場から10年あまりしか経っていないにもかかわらず、瞬く間にその存在を前提とした社会に変化していった。今後もデジタルトランスフォーメーション（DX）と呼ばれる

変化は急速に進むと考えられる。それらを押し進める産業界と連携しながら、社会における大学の役割を果たし、ICTが発展する社会で活躍できる女性を育成していくには、社会連携教育センターの活動が大変に重要である。産業界との連携は時間をかけて信頼関係を築き、刻々と変化する社会情勢の中で臨機応変に双方のメリットを探りながら活動を展開していく必要がある。そのためには社会連携教育センターが本学における産学連携の中心として全体を発展的にコーディネートすることがますます求められていくと考えられる。

AI Artificial Intelligence

IoT Internet of Things

ICT Information and Communication Technology

DX Digital Transformation

# 「JWU ラーニング・コモンズかえで」 開設に向けての経緯

平田 京子

正課外学修推進 / ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員（家政学部住居学科教授）

日本女子大学では、これまでラーニング・コモンズが図書館の中に1室設置され、プロジェクターなどの機器を用いての学習が可能になっていたが、創立120周年に向けて図書館新設、西生田キャンパスとの一体化による新教室・研究室棟（百二十年館）の建設が決まり、それぞれの建物にラーニング・コモンズを設置することが決定された。キャンパスデザインを手がけた建築家・卒業生の妹島和世氏により、目白の森のキャンパスというコンセプトのもとに設計が行われ、その中で「キャンパスいっばいに広がるラーニング・コモンズ」という点が打ち出された。

本学では多くの学生がキャンパスに長時間滞在し、夜まで活発に共同学習などの活動を繰り返すという動きが弱かった。そこで建物内の空間の活性化をめざすことが重要であるとして、「学修支援部会」が理事会の下に組織された。ここでは横断的な事務組織による連携と教職員でのフラットな議論が行われ、教職協働でこれまでにない新しいコンセプトを生み出すための活動が行われた。その結果として、新図書館と百二十年館のラーニング・コモンズが複数あるためネットワーク化すること、その機能の活性化と使用方法、広報機能の強化などが検討された。ラーニング・コモンズとは一般的には学修空間であるが、本学では、それに加えて「社会連携に出会う」ための機能をもつことに特色をおいた。

ニーズと使用のイメージを確立するため、ラーニング・コモンズの設計者・施工者とともに教職員ワークショップを開催、さらに教職員、全学学生へのアンケート調査を実施・学内公開し、それらの結果を部会で議論し、設計者に伝えた。そのためラーニング・コモンズかえでの机や椅子・電子機器の仕様、本棚の設置、空間の詳細等がニーズをもとに設計されることになった。またJWUラーニング・コモンズ「さくら」と「かえで」という名称も全学学生・教職員から公募され、全学の投票を経て決定された。かえではきわめてオープンな空間であり、学生・教職員がオープンマインドで、新たな場を創り上げていくことが当初からめざされている。機能の強化を通じて、学生が仲間を見だし、社会とリンクしていくこと、そして新たな学年へとつなげていく、循環を生み出すことが期待されている。

# 「JWU ラーニング・コモンズかえで」 ロゴについて

平田 京子

正課外学修推進 / ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員 (家政学部住居学科教授)

JWU ラーニング・コモンズは、新しく 2020 年度に設置された社会連携教育センターのもとにつくられる新たな学修空間であるだけでなく、さくらとかえでがペアになったネットワーク型のラーニング・コモンズである。どちらも活性化される必要があるが、新図書館は道路をはさんでキャンパスの教室からは少し距離がある。そこで両者を活性化し、その新たな学修空間に親しみをもってもらいたいというのが、この空間機能を議論した学修支援部会の目標であった。

そのため、名称も全学から募集・投票し、空間を学内に広報するためのポスタージャックを目白・西生田で実施し、知名度を上げるための活動を行った。

その際に視認性の高いロゴマークが重要であるとの認識に至り、2019 年 10 月下旬に「JWU ラーニング・コモンズロゴマーク募集コンテスト」を実施した。学生・職員から 22 作品の応募があった。学生・教職員によるキャンパス内でのシール投票の結果も踏まえ、学修支援部会にて最優秀作品賞を選考し、JWU ラーニング・コモンズのロゴマークが決定した。名称の場合は同じ名称がないか web 上で確認することで、類似名称を回避できたが、ロゴマークの選定には、多くの労苦と時間を要した。

審査までは順調に推移した。しかしながら応募作品がプロの用いるアプリケーションで著作権等に配慮された形で作られた訳ではなく、著作権に関する慎重な個別の確認・対応が求められ、住居学科の協力を得てデザインを全面的に作成し直した。商標登録をすべく慎重な著作権に関する処理と類似デザインの有無が確認され、およそ半年以上の期間を経てようやくロゴが選定された。

この決定をふまえて、ロゴコンテストの受賞者への授賞式を 2020 年 10 月 29 日に挙行了。学長による賞状の授与、図書館長、卒論指導教員の挨拶、受賞者 家政経済学科 4 年次学生 (当時) 濱田愛莉さんの挨拶などが動画収録され、学内公開された。



決定された JWU ラーニング・コモンズのロゴマーク

## 「JWU ラーニング・コモンズかえで」 プレオープニングイベント報告

平田 京子

正課外学修推進 / ラーニング・コモンズ運用検討プロジェクトチーム研究員 (家政学部住居学科教授)

### 1 「JWU ラーニング・コモンズかえで」プレ・オープニングイベント 第1弾

ラーニング・コモンズかえでとは？

社会連携で世界とつながろう：アフリカとつながる、3.11 被災者とつながる経験から

#### 【主旨】

誰かのために何かをしたい！という学生さんの思いを応援するための学びの場「JWU ラーニング・コモンズ かえで」が、2021年4月にオープンします。今回はプレ・オープニングイベントとして、ラーニング・コモンズかえではどのような施設なのかご紹介するとともに、全学コンクールで学生がデザインしたラーニング・コモンズロゴもご披露します。

日本のみならず世界で学生とともに支援活動を行い、多くの学生がかかわるアフリカや東日本大震災の被災地支援で活躍する卒業生をゲストとしてお迎えして、社会連携をめぐるいろいろなお話を伺います。海外・日本での実践活動や、学生時代に学んでおくことなど、いろいろお話しくださる予定です。第2部はトークショー。ゲストと気軽に話せるフレンドリーなセミナーです。

#### 【概要】

日時：2020年11月12日（木）14：00～16：00

実施方法：Zoomによるオンラインイベント

対象者：本学学生、本学教職員、本学卒業生

コーディネーター：家政学部住居学科教授 平田京子

ゲスト：新妻香織さん フー太郎の森基金代表、鈴木りえこさん 特定非営利活動法人ミレニアム・プロミス（ニューヨーク）理事

#### 【当日の状況】

アフリカでの国際協力を推進するゲストの話を知ることができたため、多くの学生が参加し、活発な質疑応答があった。

### 2 「JWU ラーニング・コモンズかえで」プレ・オープニングイベント

日本女子大学で大地震が起きたら？ 日本女子大学は妊産婦・乳児のための避難所を開設するのを知っていますか？

助けられる人になろう：お母さんと赤ちゃんを守るための大学生の支援が必要です。本学の避難所運営や学生ボランティア組織を研究してきた4年生が語ります

### 【主旨】

日本女子大学は、大地震時に0歳の赤ちゃんとお母さんを守るため、文京区より避難所（妊産婦・乳児救護所）に指定されています。

皆さんがキャンパスにいる時に大地震が発生すると、むやみに帰宅せず、キャンパスにとどまることを東京都から要請されています。災害時の身の守り方について考えたことがありますか？妊産婦・乳児救護所について、知っていますか？キャンパスにいる時、自分にできることは何だろうか？

今回は、大学生が赤ちゃんとお母さんを守る人になるため、授業と卒論で取り組んだ救護所の運営方法や学生アンケート調査を学生が語ります。先輩と一緒に災害時に自分に何ができるか、考えてみませんか？

ゲストの学生に気軽に質問したり、お話ししたりできるフレンドリーなセミナーです！

### 【概要】

日時：2021年3月15日（月）10：00～11：00

実施方法：Zoomによるオンラインイベント

対象者：本学学生、本学教職員

コーディネーター：家政学部住居学科教授 平田京子

ゲスト：住居学科4年 天野朋実さん、大石真理恵さん

### 【当日の状況】

多くの学生が参加し、質疑応答は少なかったが、妊産婦・乳児救護所への関心を高めたとのアンケート結果が得られた。

## ③ 「JWUラーニング・コモンズかえで」プレ・オープニングイベント 第2弾

社会連携につなげよう：子ども食堂 / 子どもへの弁当・食材配付（豊島区） どんな活動が行われているの？

### 【主旨】

誰かのために何かをしたい！というみなさんの思いを応援するための学びの場「JWUラーニング・コモンズかえで」が、2021年4月にオープンします。まず、完成間近な「JWUラーニング・コモンズかえで」の様子を、動画で詳しくご紹介します。

みなさんに社会連携の今をお伝えするため、今回は、子ども食堂やプレーパーク、無料学習支援などを豊島区で展開するゲストをお迎えして、「子ども食堂（コロナ禍では子どもへの弁当・食材配付活動）」に関するお話を伺います。子ども食堂ってどんな感じなのでしょう。大学生はどう関わっていけるのでしょうか。ゲストに気軽に質問したり、お話ししたりできるフレンドリーなセミナーです。

## 【概要】

日時：2021年3月19日（金）10：00～11：00

実施方法：Zoomによるオンラインイベント

対象者：本学学生、本学教職員

動画制作・紹介：理学部物質生物科学科教授 今城尚志

コーディネーター：家政学部住居学科教授 平田京子

ゲスト：栗林千絵子さん

特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長

## 【当日の状況】

多くの学生が参加し、質疑応答も活発に行われ、盛会であった。



学びの場「JWU ラーニング・コモンズかえで」の空間イメージ

# 心理相談室設置準備状況

川崎 直樹

心理相談室設置準備プロジェクトチーム研究員心理相談室長（人間社会学部心理学科教授）

日本女子大学心理相談室は、2020年度まで西生田キャンパスにて、生涯学習センター所管として、地域住民の心の健康にまつわる相談支援活動を24年間行ってきた。年間のべ300～500回程度の面接実績を継続してきた。2021年度より社会連携教育センターに移管し、社会連携教育センター分室内にて、開室する予定である。2020年度はその開室準備として、相談料金の見直し、必要規約の確認・整備、事務運営体制の整備などを行い、次年度より従来通りの活動開始が可能な見込みである。なお2020年度よりコロナ禍対応のため、ビデオ通話や電話による遠隔相談も開始し、これを次年度以降も継続予定である。広報と地域連携活動として、(1) 近隣自治体の教育・福祉関係部署への訪問、(2) 開室予定の広告を都営バスに窓ステッカーとして掲載、(3) 西生田近辺および目白近辺の医療・教育・福祉等の関係機関に移転の報告を行った。2021年5月より開室予定であり、近隣の関係機関へは直接の訪問と協議を含めた広報・連携活動を展開していく必要がある。

# 子育て研究支援ネットワーク（仮）について

## JWU 子育てサイエンス・ラボが設立されます

薬袋 奈美子 社会連携教育センター地域連携部門長（家政学部住居学科教授）

社会連携センターに、子育てに関する研究支援についての問い合わせがあったことをきっかけに、本学で多くの教員が長く取り組んできた子育てに関連する研究活動の連携を図り、社会連携を行うことが構想された。センター幹事会で検討の上、11月18日付で、大学内の教職員に向けて、「子育て関連研究ネットワーク組織検討会メンバー」の募集を行い、11名の応募を得た。この11名の方に詳細な説明を行い、組織検討に参加をする意思を改めて表した5名の教員の方とともに、2021年度に「JWU 子育てサイエンス・ラボ」を設立する準備を整えた。

ここでは、子供を育てる家庭や学校だけの問題とはとらえずに、子育てを支える社会にまで視野を拡げることで、本学の総合大学としての力を発揮することができる。これまで総合大学とはいえ、教員は各自独立した活動を行っていることが多く、学内で互いの研究を知る機会は限られていた。また連携した研究も、十分に行われていたとは言いがたい。子育てとそれをとりまく環境を対象とした研究交流活動を行い、社会に発信・交流する場を設けることで、本学の研究が深まり、かつ社会へ迅速に還元できることが期待される。

この組織は、1) 学内の子育てに関連する研究交流の場とし、研究資源を共有する、2) 地域社会・企業・組織と連携して、子育て機能・環境の向上を目指す、3) 地域との交流の場・情報発信の場を設けるという3つのことを目的とした。そして、社会連携センターの構成員とともに運営する「コア・メンバー」、研究の発表・交流を積極的に行う「ラボ・メンバー」、子育てやイベント情報を受け取ることを主とする「ネットワーク・メンバー」の3つの学内メンバーの分類を設けた。更に学外の方に情報を提供する場に加わる「子育て情報会員」、子育てをしている方に研究に協力をいただくための「ラボ協力会員」の2種類のメンバーシップを設けることとなった。2021年度から定期的に子育てサイエンス・カフェを開催し、研究交流、社会への情報発信等を行う予定である。

### JWU 子育てサイエンス・ラボ 取り組みの概要

研究交流	◆学内での子育て支援の研究・教育の交流・支援 ①研究交流会「子育てサイエンス・カフェ」の開催 ②学外の研究協力者との連携窓口
子育て支援活動	◆研究成果をもとに地域社会・企業・組織と連携して、地域の家庭と、本学関係者が主催する子育て支援活動とのブリッジング
地域交流・情報発信	◆子育てに関連する研究成果等の学外の方への情報発信

# JWUラーニング・commonsかえで

## プレ・オープニングイベント

### 卒業生によるトークショー



ラーニング・commonsかえでとは？  
社会連携で世界とつながる  
アフリカとつながる、  
3・11被災者とつながる経験から



■対象者  
本学学生  
本学教職員  
本学卒業生  
附属校園関係者

■開催方法  
Zoom  
による  
オンライン  
イベント

■日時

2020年

11月12日(木)

14:00~16:00

■ゲスト

新妻香織さん 鈴木りえ子さん

■コーディネーター  
家政学部住居学科教授  
平田京子



特定非営利活動法人  
フー太郎の森基金代表



特定非営利活動法人  
SDGs・プロミス・  
ジャパン理事長

#### 申込み期間

2020年10月13日(火)~11月12日(木)14:00まで

主催 JWU 社会連携教育センター

#### 【応募方法】

こちらのQRコードもしくはURLからご応募ください。



<http://urx3.nu/ulvd>

先着300名となります。定員になりましたら、  
応募を締め切ります。  
ご応募いただいた方には、確認のメールをお送りします。  
詳細は次ページをご覧ください。

## JWUラーニング・commonsかえで プレ・オープニングイベント 卒業生によるトークショー (2020年11月12日開催)

### 趣旨

誰かのために何かをしたい！という学生さんの思いを  
応援するための学びの場、地域や世界とつながる場所

「JWUラーニング・commons かえで」が、  
2021年4月にオープンします。

今回はプレ・オープニングイベントとして、  
ラーニング・commonsかえでではどのような施設なのか  
ご紹介するとともに、全学コンクールで学生がデザイン  
したラーニング・commonsロゴもご披露します。

日本のみならず世界で学生とともに支援活動を行い、  
多くの学生がかかわるアフリカや

東日本大震災の被災地支援で活躍する卒業生を  
ゲストとしてお迎えして、社会連携をめぐる  
いろいろなお話を伺います。

海外・日本での実践活動や、学生時代に学んでおくこと  
など、いろいろお話して下さる予定です。

第2部はトークショー。ゲストと気軽にお話できる  
フレンドリーなセミナーです！

### ゲストについて

#### 新妻香織さん

特定非営利活動法人フー太郎の森基金代表

エチオピアで子どもたちの環境教育、緑化活動を  
長年実施。20年間で400万本の植林を果たし、  
エチオピアの世界遺産の町ラリベラに緑がよみがえる。  
東日本大震災では福島県相馬市と新地町で市民支援・  
震災直後、東北お遍路プロジェクトやふくしま市民  
発電を創設、代表などを多数つとめる。  
全世界公開の映画「フラワースhow!」にも  
取り上げられた

<http://futaro.org/index2.php>

#### 鈴木りえ子さん

特定非営利活動法人SDGs・プロミス・ジャパン理事長。

ミレニアム・プロミス・アライアンス(アメリカ、カーナ)理事。

Uniting to Combat NTDs(イギリス)理事。

日本女子大学評議員。著書『超少子化一危機に立つ日本社会』

(集英社新書)など多数。

著書『サイレント・レボリューションを超えて』で

1997年読売論壇新人賞優秀賞受賞。

毎年、学生と共にアフリカ僻地を訪問。

<http://sdgspromise.org/>

#### 【問い合わせ先】

日本女子大学 社会連携教育センター 事務局  
jsc@atlas.jwu.ac.jp

# ラーニング・コモンズかえで プレ・オープニングイベント



日本女子大学で大地震が起きたら？  
日本女子大学は  
妊産婦・乳児のための避難所を開設  
するのを知っていますか？  
助けられる人になろう：お母さんと  
赤ちゃんを守るための大学生の支援  
が必要です。本学の避難所運営や  
学生ボランティア組織を研究してきた  
4年生が語ります

## 【概要】

日時・・・ 2021年 3月15日(月) 10:00～11:00

実施方法・・・・・・・・ Zoomによるオンラインイベント

対象者・・・・・・・・ 本学学生、本学教職員

コーディネーター・・・・・・・・ 家政学部住居学科教授 平田京子

ゲスト・・・ 住居学科4年 天野朋実さん、大石真里江さん

申込み期間・・・・・・・・ 2021年3月1日(月)～2021年3月15日(月) 10:00まで

## 【応募方法】

こちらのQRコードもしくはURLからご応募ください。



<https://cutt.ly/Ylbeqrk>

先着300名となります。定員になりましたら、応募を締め切ります。  
ご応募いただいた方には、確認のメールをお送りします。  
応募した後、しばらくしても確認のメールが届かない場合は、  
下記問い合わせ先にお問い合わせください。  
本日のイベントはレコーディングをし、後日学内の皆様にご覧いただけるよう、学内限定で配信する予定です。



JWUラーニング・コモンズかえで  
プレ・オープニングイベント  
(2021年3月15日開催)

誰かのために何かをしたい！というみなさんの思いを応援するための学びの場

「ラーニング・コモンズかえで」が、2021年4月にオープンします。

そこは社会連携との出会いを生み出す場所。

これから社会連携やボランティア活動につなげるためのいろいろを検討しています。

日本女子大学は、大地震時に0歳の赤ちゃんとお母さんを守るため、

文京区より避難所(妊産婦・乳児救護所)に指定されています。

皆さんがキャンパスにいる時に大地震が発生すると、むやみに帰宅せず、

キャンパスにとどまることを東京都から要請されています。

災害時の身の守り方について考えたことがありますか？

妊産婦・乳児救護所について、知っていますか？

キャンパスにいる時、自分にできることは何だろう？

今回は、大学生が赤ちゃんとお母さんを守る人になるため、

授業と卒論で取り組んだ救護所の運営方法や学生アンケート結果を学生が語ります。

先輩と一緒に、災害時に自分に何ができるか、考えてみませんか？

ゲストの学生に気軽に質問したり、お話ししたりできるフレンドリーなセミナーです！

## 【問い合わせ先】

=====  
日本女子大学 社会連携教育センター 事務局  
jsc@atlas.jwu.ac.jp  
=====

# JWUラーニング・コモンズかえで プレ・オープニングイベント

「ラーニング・コモンズかえでとは？」  
社会連携につなげよう  
子ども食堂 子どもへの弁当・食材配布（豊島区）  
「どんな活動が行われているの？」

## 申込み期間

2021年  
2月19日（金）～  
3月19日（金）  
10:00まで

**対象者**  
本学学生、本学教職員、本学卒業生  
**主催**  
JWU社会連携教育センター

**【応募方法】**  
こちらのQRコードもしくは  
URLからご応募ください。



<https://cutt.ly/MkncxQt>

先着300名となります。  
定員になりましたら、応募を締め切ります。  
ご応募いただいた方には、確認のメールをお送りします。  
応募した後、しばらくしても確認のメールが届かない場合は、次ページに記載の問い合わせ先にお問い合わせください。  
本日のイベントはレコーディングをし、後日学内の皆様にご覧いただけるよう、学内限定で配信する予定です。

## 開催方法

Zoom  
による  
オンライン  
イベント

## 日時

2021年  
3月19日（金）  
10:00～11:00

## ゲスト

栗林知絵子さん

特定非営利活動法人  
豊島子ども  
WAKUWAKUリネットワーク  
理事長代表



コーディネーター  
家政学部  
住居学科教授  
平田京子

## 動画制作・紹介

理学部  
物質生物科学科教授  
今城尚志

## JWUラーニング・コモンズかえで プレ・オープニングイベント (2021年3月19日開催)

何かをしたい！というみなさんの思いを応援するための学びの場「コモンズかえで」が、2021年4月にオープンします。

近頃「ラーニング・コモンズかえで」の様子を、動画で詳しくご紹介します。

社会連携の今をお伝えるため、今回は、子ども食堂やプレーパーク、無料学習支援などを

ご招待するゲストをお迎えして、「子ども食堂（コロナ禍では子どもへの弁当・食材配付活動）」に

関するお話を伺います。子ども食堂ってどんな感じなんだろう。大学生はどう関わっているのでしょうか。

ゲストに気軽に質問したり、お話ししたりできるフレンドリーなセミナーです！

## 趣旨

## ゲストについて

栗林知絵子さん

2004年より池袋本町プレーパークの運営に携わり

地域活動を始め、地域の子どもの地域で見守り育てる

ために、プレーパーク、無料学習支援、子ども食堂

（コロナ禍ではお弁当や食材の配付）などの活動を通じて、

子どもと家庭を伴走支援。

子どもの貧困問題で、天皇・皇后両陛下への説明をつとめ、

テレビ出演などでも活躍中。



## 【問い合わせ先】

日本女子大学 社会連携教育センター 事務局  
jsc@atlas.jwu.ac.jp

## センター構成員・各種委員

### 社会連携教育センター構成員・プロジェクトチーム (PT) メンバー

#### 社会連携教育センター構成員

横井 孝志	(家政学部)	所長
薬袋 奈美子	(家政学部)	地域連携部門長
近藤 光博	(文学部)	
中西 裕二	(人間社会学部)	産官学教育連携部門長
今城 尚志	(理学部)	
平田 京子	(家政学部)	研究員
定行 まり子	(家政学部)	研究員
川崎 直樹	(人間社会学部)	研究員
長谷川 治久	(理学部)	研究員
浅田 誠	(大学改革推進室副室長)	
三石 裕輔	(大学改革推進室社会連携担当課長)	

#### プロジェクトチーム (PT) メンバー

地域連携推進 PT	薬袋 奈美子	中西 裕二	浅田 誠	平田 京子
包括協定締結推進 PT	中西 裕二	浅田 誠	定行 まり子	平田 京子
産官学教育推進 PT	中西 裕二	今城 尚志	長谷川 治久	定行 まり子
正課外学修推進 PT	今城 尚志	近藤 光博	浅田 誠	平田 京子
SDGs 推進 PT	近藤 光博	薬袋 奈美子	中西 裕二	今城 尚志
心理相談室設置準備 PT	薬袋 奈美子	近藤 光博	川崎 直樹	
HP更新・パンフレット作成 PT	近藤 光博	薬袋 奈美子	浅田 誠	

### 社会連携教育センター運営委員会委員

理事長	今市 涼子	学長	篠原 聡子
副学長	金沢 創	所長	横井 孝志
担当理事	岡本 吉生	家政学部長	丸山 千寿子
文学部長	清水 康行	人間社会学部長	小山 聡子
理学部長	奥村 幸子	生涯学習センター所長	坂本 清恵
事務局長	熊谷 賢次	総務部長	田島 光則
財務部長	熊谷 賢次	管理部長	赤羽 正行
学務部長	平田 京子	学務部事務部長	浅田 誠
学生生活部長	坂田 薫子	通信教育・生涯学習事務部長	本西 友成

## 社会連携教育センター運用委員会委員

所長	横井 孝志	家政学部	葉袋 奈美子
文学部	近藤 光博	理学部	今城 尚志
人間社会学部	中西 裕二	研究員	平田 京子
研究員	定行 まり子	研究員	川崎 直樹
研究員	長谷川 治久	総務部長	赤羽 正行
入学・広報部長	上村 隆子	学務部長	平田 京子
学務部事務部長	浅田 誠	学生生活部長	坂田 薫子
通信教育・生涯学習事務部長	本西 友成	大学改革推進室課長	澤宮 香津代
総務課長	嵯峨野 恵美	西生田総務課長	高橋 謙一
広報課長	嶋川 憲治	研究・学修支援課長	竹村 雅美
教務・資格課長	菅原 彰子	西生田学務課長	浅田 誠
学生課長	高橋 香織	キャリア支援課長	増田 一美
生涯学習課長	河村 尚美		

[jsc@atlas.jwu.ac.jp](mailto:jsc@atlas.jwu.ac.jp)

